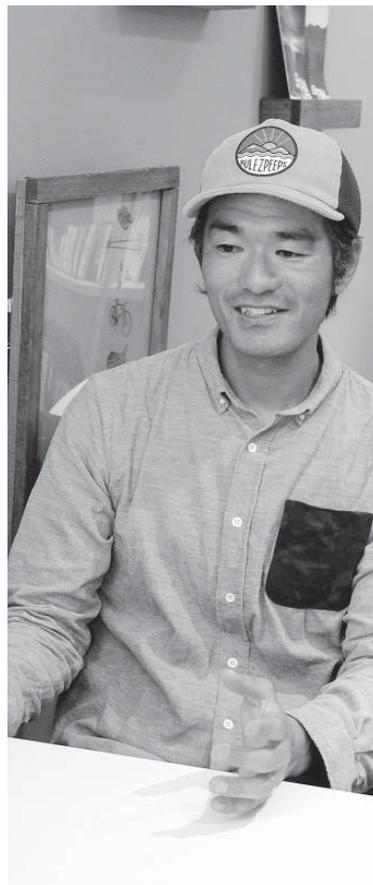


まちひとしごと

Vol. 7

SPROUT代表 峠ヶ孝高さん

人と体験や思い出が繋がる場所へ



駅

前通りでカフェSPROUTを経営する峠ヶ孝高さん。彼は千葉県の出身で、倶知安には子どもころ、家族でスキー旅行に何度か訪れていたという。

「大学3年生の時にたまたま倶知安のアウトドア会社のパンフレットを見て、働いている人たちがすごく楽しそうで、その時に初めてこの町で働くということを考えました」
同時期に動物や自然の作品で知られる写真家に興味を持ったこともあり、20歳のころに彼の足跡をたどってみたいと思い、単身バックパッカーとしてアラスカを目指し渡りました。

「その時の体験から本格的なアウトドアに目覚めましたね」
その後、本州でカヤックのインストラクターを経験し、24歳の時、学

生の時に見たアウトドア会社に就職し、倶知安に移住した。

「今でも多くの人が冬のニセコに魅せられてこの町を訪れていますけど、僕は夏のニセコで働きたくて来ました。本州では1年を通してアウトドアのフィールドで働くには、夏と冬で違う場所に住まなくてはいけない。ここにはどちらもあつたんです」

当時アウトドア会社でラフティンガイドなどをしていた峠ヶさんには、ずっと考えていた夢があった。

「大学の時に渡米した際に出会ったカフェが、これまで自分が知っていた日本のものと全然違って、それぞれに音楽やアウトドアなどのテーマがあつて、それを好きな人がお店に集まっていました。自分が大好きな山や川、自然が身近にある倶知安でそんなお店をやってみたくたんです」

その思いから一念発起し勤めていた会社を辞め、自分の夢の方向性を再確認するために再度渡米、その数カ月後、アウトドアに関連する本や雑貨に囲まれた、峠ヶさんの思いが詰まるSPROUTが駅前通りに開店した。

「これからもただコーヒーを飲む場所としてだけでなく、お店を通じて人が出会い、体験を共有できる場所でありたいですね。今この町は、新幹線開業や高速道路、外国人観光

客の増加など大きな動きの中にあるけど、周りの動きに流されることなく、柔軟な考え方と自分の感覚を大切に、町の人にとつて、変わらないうる場所にしていきたいと考えてます」

現在は店舗の他にも活動の場所を広げており、移動販売のコーヒーエイドで病院や町内外のイベントなどに出席する姿は、まさにアウトドアのコーヒー屋さんだ。

「最近趣味のマラソンで100キロを走ったんです。長い距離はゴールだけを見ていたら走れませんが、目標に着くまでを楽しみながら自分で考えて、たどり着くことが大切。お店もそういう風に進んでいきたい。そのときそのときを大切に」
SPROUTとは「芽・新芽・芽を出す・生え始める」こと、花が咲き実を付けるまでの過程。「旅もその道のりを楽しみたい」そう言った峠ヶさんの想いは、お店の名前にもしっかりと込められているような気がした。

※まちひとしごとは不定期連載です